

「東日本大震災 多言語翻訳・情報提供」活動報告

2011年6月30日

未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」。本センターでは、有志で「災害多言語翻訳支援チーム」を立ち上げて、仙台市の災害情報、放射線被曝に関する基礎知識、入管情報を、日本語を含めて最多で22言語に翻訳しました。また、センターのウェブサイトに「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げてインターネットでの情報提供も行いました。以下、活動の概略を報告します。

1. 災害情報の多言語翻訳支援活動

【経緯】3月11日（金）コミュニティ通訳登録者（9言語、23人）に、12日に外大OB・OG・教職員・大学院生が登録している語学ボランティア（26言語、121人）に呼びかけ、翻訳支援チームを立ち上げる。

【活動期間】3月12日～4月3日（3週間）

【活動参加者】126人

男女：男28 女98

外国人：18人／インドネシア、タイ、中国、ブラジル、ロシア、韓国、インド？）

居住国：イギリス、イタリア、オーストラリア、韓国、スペイン、タイ、ドイツ、フランス、ベトナム、ロシア（把握している分のみ）

【翻訳言語】21言語（日本語以外）／イタリア語、インドネシア語、英語、韓国語、カンボジア語、スペイン語、タイ語、中国語、ドイツ語、ヒンディー語、ビルマ語、フィリピン語、フランス語、ベトナム語、ベンガル語、ペルシア語、ポルトガル語、ポーランド語、マレーシア語、ルーマニア語、ロシア語

【翻訳内容】

●仙台市からの災害情報（仙台市災害対策本部発信）

ライフライン、病院、交通、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設、災害ダイヤル、ボランティアセンター立ち上げ、ごみの収集、がれき置き場、長距離バス、高速バス、り災証明申請書、建物被害認定調査

13日／ライフライン情報、病院情報

14日／交通情報、給水・ごみ・下水道・ガス、火災予防、市役所手続き、児童施設

14日／災害ダイヤル、ボランティアセンター、

15日／ごみの収集、がれき置き場、

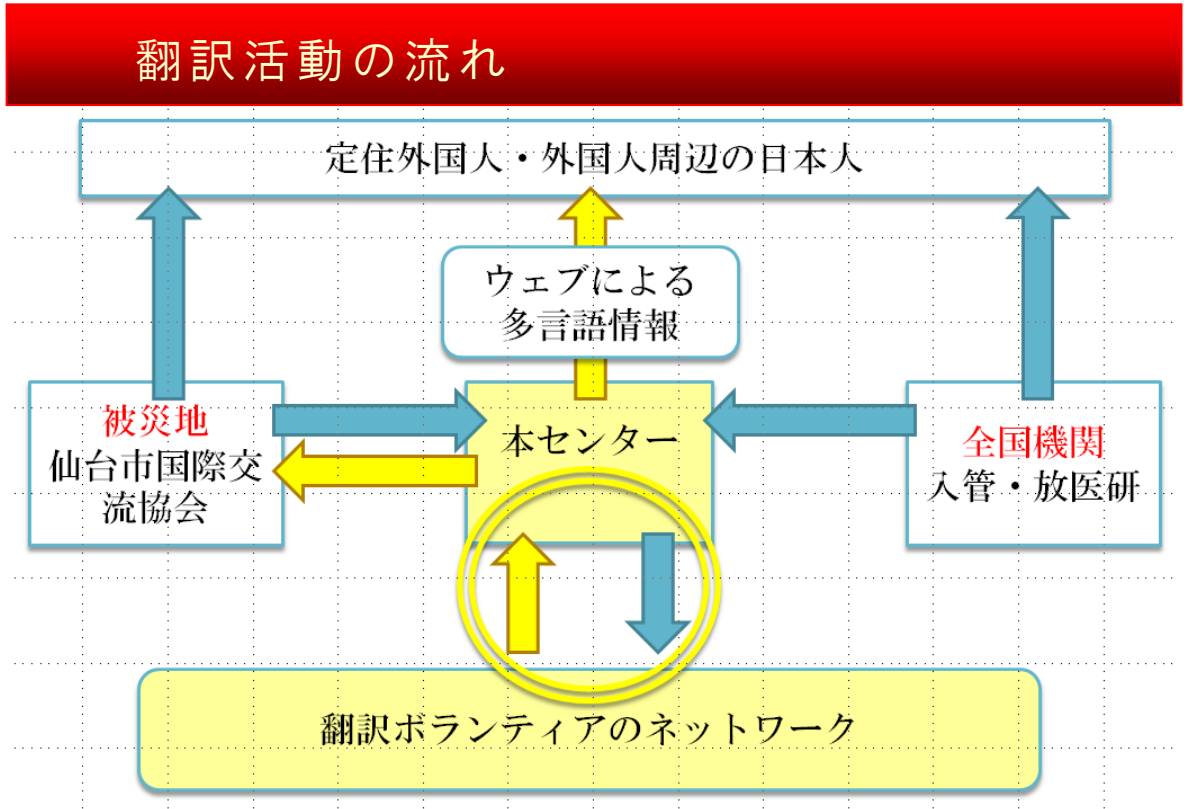
16日／長距離バス、高速バス

り災証明申請書

27日／建物被害認定調査

- 放射線被曝に関する基礎知識 I～V (放射線医学総合研究所・情報)
- 入国管理局からのお知らせ 1～3
- 日弁連・被災外国人のための電話法律相談チラシ

【翻訳活動の流れ】



2. 「多言語災害情報支援サイト」での情報提供

当初は本センターホームページ上で、さらに3月25日からは災害情報専用の「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げて、上記1で翻訳したものを掲載し情報提供を行った。

【情報提供期間】 3月15日～6月30日

【多言語情報サイトの周知】

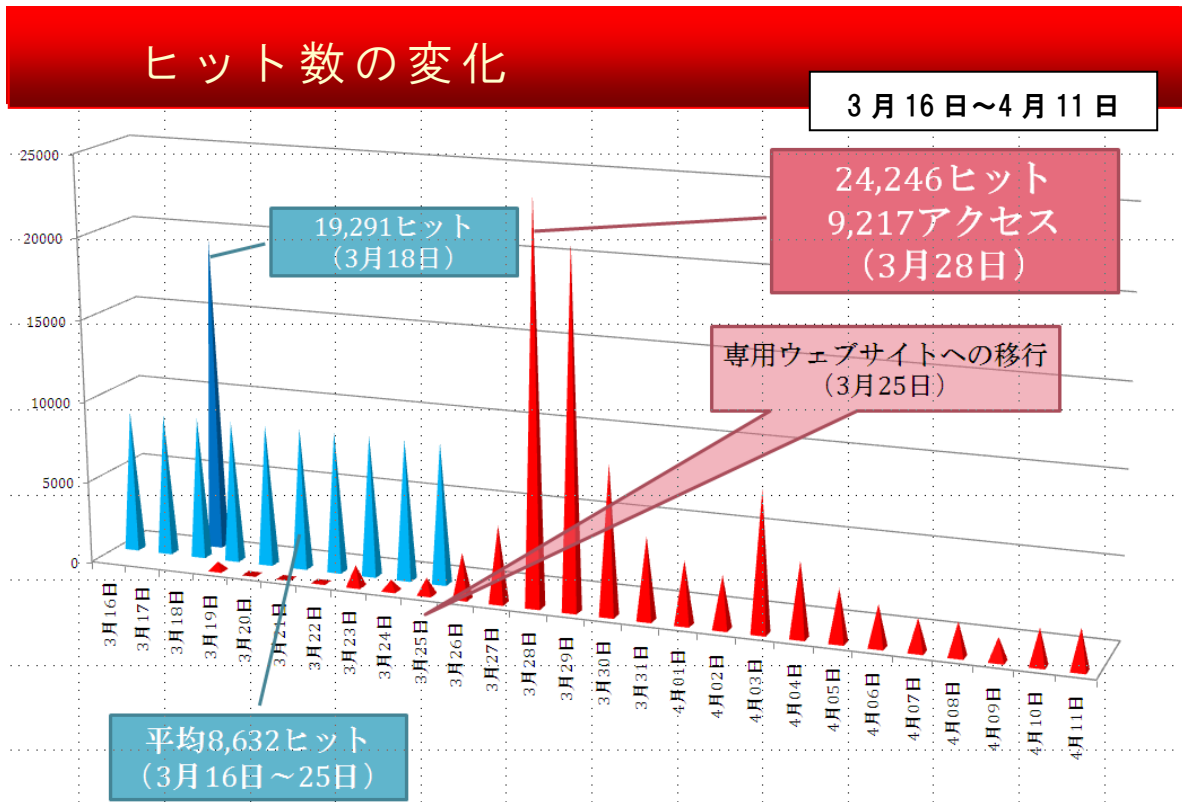
●センターのメールマガジン配信（3回） <号外> 3月16日、18日、23日

●マスコミ等

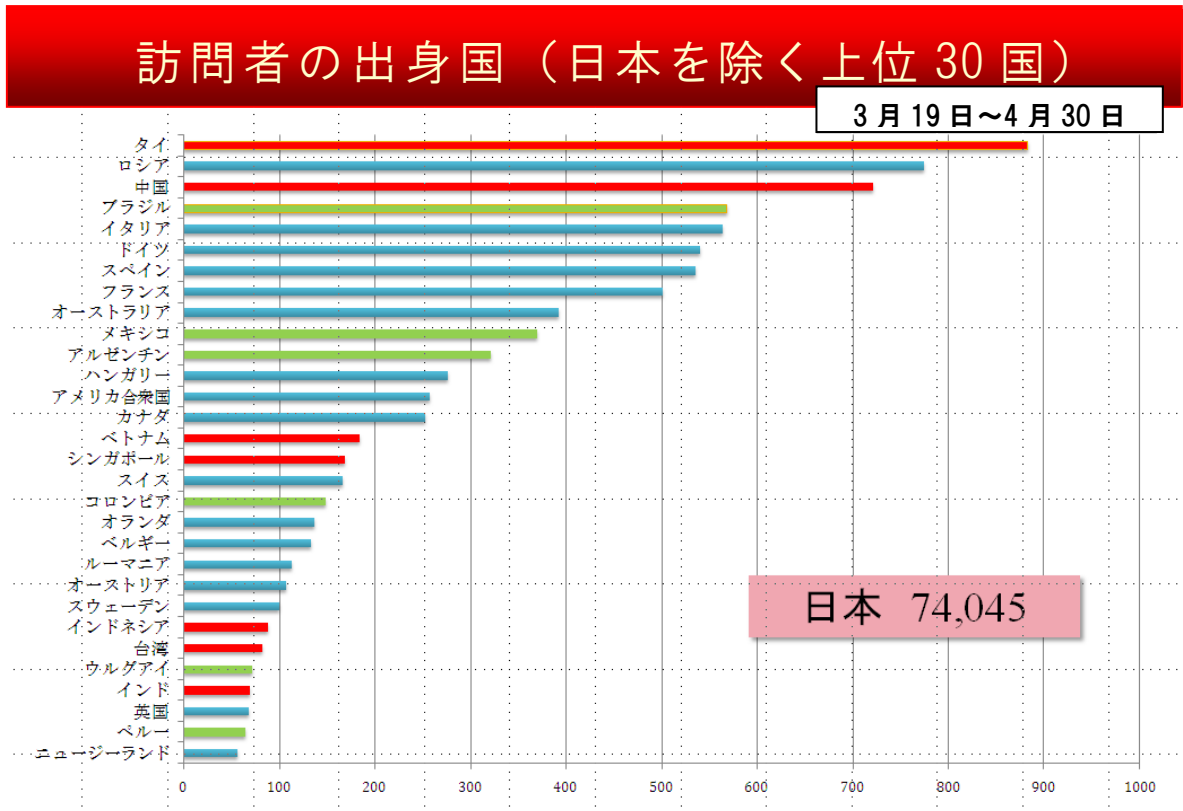
Japan Times	3月19日
日本経済新聞（社説）	3月22日掲載
毎日新聞	3月25日掲載
NHK 昼のニュース	3月28日（インタビュー映像）、29日（文字テロップ）放映
週刊ST	4月1日掲載
朝日新聞	5月25日掲載
国際人流	7月号掲載
その他、時事通信、電気新聞、科学新聞の取材あり	

【アクセス数】 3月16日～25日の10日間／合計86,322件（最多 18日（金）19,291件）
3月末日までの最多ヒット24,246件。
4月3日の翻訳活動終了とともにアクセス数は減少。

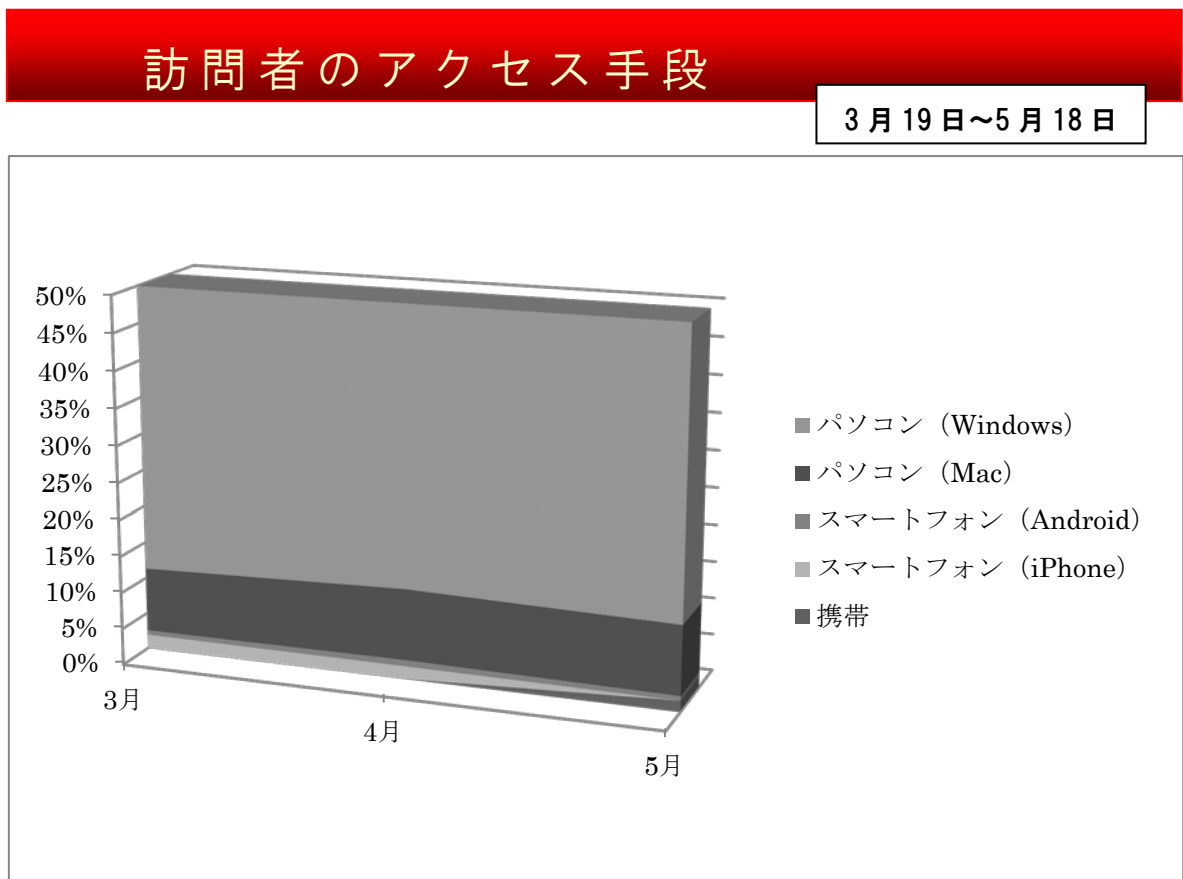
●ヒット数の変化



●訪問者の出身国



●訪問者のアクセス手段



3. 利用者からのフィードバック

外国人の身近にいる日本人数人からお礼のメールをいただきました。以下、お二人からご本人の了解を得られたものを紹介します。

- インドネシアの国営放送では『放射能は 10 時間で東京上空に到着する。人体に影響のある量である』と報じたらしく国の親御さんたちがパニックになっています。こんなとき、少しでも母語の情報が安心材料だと思います。(東京都在住)
- 両親がベトナムの方と一緒に仕事をしているのですが、今回の震災についてベトナム人の方々が大変不安を持っておりました。日本人でも難しい今回の原発他の情報は、いくら報道を見ても安心できず、本国からは帰って来いと急かされ、本人たちも帰りたくないと泣くばかりでした。ベトナム語の翻訳はなかなか見つからず、ほとんど困っているときに、こちらのサイトを見つけ大変助けられました。多少余裕も出来たようで、コピーして友人同士で読んだりしていたようです。(栃木県在住)

4. 被災外国人のための電話法律相談・トリオフォン通訳

本センターでは、日常的に外国人のための専門家相談会などに参加し、生活者としての外国人への支援活動を行っています。こうした活動で連携関係のある弁護士会からの依頼でトリオフォンを使っての被災者向け法律相談に通訳の協力をしました。

主催：日本弁護士連合会・関東弁護士会連合会・東京弁護士会・第一東京弁護士会・第二東京弁護士会

協力：東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

【活動期間】 3月29日～7月29日（4ヶ月）

【活動者実数】 29人（内外国人8人）

4月4日（月）に大学院生向け説明会（10人参加）

【待機言語】 15言語（英語、中国語、韓国語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語、ベンガル語、ビルマ語、ルーマニア語、ヒンディー語、ポーランド語）

【相談件数*】 全体で129件

【相談者国籍等*】 多い順に、ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、米国、韓国など21カ国、ほか帰化者、無回答者

【相談内容*】 相談件数の多い順に、震災以外、労働問題、在留資格、帰国、離婚・親族、不動産賃貸借（借家）など

(*＝2011年11月27日東京外大「多文化社会実践研究全国フォーラム」
関聡介弁護士配布資料による)

5. 活動から見えてきたこと

(1) 顔の見えるネットワーク構築の重要性

平常時にそれぞれの組織のコーディネーター間に顔の見える関係が築かれていたことにより、作業の効率化が図れた。

(2) 海外居住者とのネットワークの可能性

インターネットの普及によって国内のみならず多くの海外居住者が参加した。そのため、地域によっては計画停電が行われ作業が頻繁に滞る中、日本で作業ができない時には海外居住者が翻訳を行うという役割分担ができた。

(3) 「地域の(ローカルな)情報」と「国レベルの情報」の翻訳の必要性

東日本大震災では原発事故により、国レベルの情報の翻訳ニーズが高まった。

(4) 「正確性」と「迅速性」を担保する仕組みづくりの必要性

ボランティア活動の場合、あくまでも自発的な活動であり翻訳力が担保されているわけではない。本学での活動では、言語別にチームを作りネイティブチェックを含め相互にチェックし合う仕組みで翻訳が行われた。正確性が担保できないと思われる内容については、翻訳しないという選択を行うチームもあった。一方、少人数の言語チームでは翻訳に時間がかかり迅速性には課題が残った。

(5) 日常活動の重要性

震災で初めて参加するという人は多数いたが、活動の中心的役割を担ったのは日常の活動を行っているメンバーであった。緊急時に即応体制を作るためには平常時の経験の蓄積があってこそスムーズな活動ができる。

(6) 専門的人材の必要性

- ・災害時には正確で迅速な翻訳が求められるが故に、高い語学力(翻訳力)を有する人材群が求められた。
- ・災害時には組織をコーディネートできる立場と力量、ボランティアを募り協働での即応体制をつくり、さらに通常業務を抱えながら参加しているボランティアがボランティアマインドを維持しつつ活動を継続できるようにコーディネートする力量が求められた。

学生震災ボランティア活動の推進

(地震緊急対策本部委託／学生後援会助成)

1. 震災ボランティア講習会の開催

	日程	参加人数
第1回	4月28日(水)	62人
第2回	5月19日(木)	29人
第3回	6月29日(水)	58人

*5月24日～26日：

プロジェクトコーディネーターによる現地調査(石巻市における学生ボランティア受け入れの可能性調査)

2. 学生震災ボランティア送り出し (学生参加人数:44人)

	送り出し期間	参加人数	報告会・オリエンテーション (参加人数)
1	7月25日(月)～28日(木)	6	10/12 (24)
2	10月21日(金)～24日(月)	4	10/27 (13)
3	11月4日(金)～7日(月)	7	11/10 (20)
4	11月20日(日)～23日(水)	5	11/25 (14)
5	12月2日(金)～5日(月)	6	12/9 (14)
6	12月16日(金)～19日(月)	7	2/14 (10)
7	12月23日(金)～26日(月)	5	
8	1月13日(金)～16日(月)	4	

*10月に学生震災ボランティアチーム「tufsteam-for-3.11」が立ち上がり、
11月以降は「tufsteam-for-3.11」の自主的活動として支援

3. 多文化社会実践研究・全国フォーラムランチタイムセッションで発表 発表者：学生6人

4. 留学生日本語教育センター・震災プロジェクトに参加 述べ人数：学生9人

留日センターが実施している「留学生のための震災プロジェクト」に震災ボランティアとして活動した
学生が参加

活動日：11月16日、11月30日、12月13日、12月20日、1月17日

5. 学生自主企画「震災ボランティア活動パネル展示」12月～3月(ガレリア)

6. 学生自主企画「子どもとの活動におけるリスクマネジメント講演会」

12月21日(水) 参加人数：12人